No.(1)

# 2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

神辺中学校区 校番 77 福山市立 湯田小 学校 最終更新日 2021年(令和3年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型"スキル&倫理観"」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## Ⅱ 中学校区

## 前年度学校関係者評価の主な内容

- ○「子ども主体の学び」に向けて、子どもたち の発想や思いを尊重し、楽しく学習できるよ うに取り組まれている。
- ○様々な行事や活動を通して、子どもたちの自 己肯定感・有用感が育まれている。
- 「やってよかった」などの子どもたちの達成感 を大切にしてほしい。
- ●「学び」に対する具体的な「みとり」を大切 にして、今まで見えなかった「学び」の姿を 見つけ、発信するとよい。

### 児童生徒の現状

- 〇子どもに任せる授業により、自分で考え、選 択し、決定するという力がついてきた。
- ○教育活動のあらゆる場面で,自分の考えや思いを出し合い,生かせるようになってきた。
- ●他者の学びの姿から、その良さを自分の学びに取り入れていく力が求められる。

育成する力 (21 ) (21	コミュニケーション 人としての思いやり
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自他のよさを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒
中学校区として統一した取組等	○ 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようなる。 ○ 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。

## 田 自 校

### ミッション

社会の中でよりよく生きる人づくり

#### 学校教育日標

自ら考え、判断し、心豊かに行動できる子どもの育成

#### 現状

#### <児童>

- ○「子ども主体の学び」の授業で、自分で考える、友だちと学び合う姿が定着 し、楽しく授業を進める児童・生徒が増えてきた。
- ●他者の意見のよさを取り入れたり、自分の考えとの違いをはっきりさせたりして、自分の考えの立場や内容の移り変わりを評価する力を高めていく必要がある。

## <授業>

- 〇自分で問いを持ち、一人で考えたり友達と話し合ったりしながら解決してい くことが楽しいと感じている児童が増えてきた。
- ●習得した知識・技能を横断的,総合的に活用して解決しようとする姿を育てる必要がある。

育成す (21 世型 " 観")		А	コミュニケーション B	3 人としての思いやり	C 課題発見•課題解決
	1•2年	A B C	人の話をしっかり聴くことだ 友達の良いところや頑張りを 「なぜだろう」「どうしたら」 することができる。	見つけることができる。	ことができる。
めざす 子ども像	3•4年	A B C	自分の考えをもち、順序立て 一人一人の違いを理解し、受 課題を見つけ、既習事項や生	受け入れることができる。	
	A 友達と自分の考えの相違に気を付けて聴きながら、筋道を立てて伝えることが B 相手の立場に立って考え、立場や意見の違いを超えて相手のことを考えた行動が C 課題発見→課題追究→実践→振り返り→課題発見のスパイラルで、より高次な記していくことができる。				

7 H 2 TC	テーマ	個に応じた多様な学びをつくる
研究	内容等	しなやかに思考し、生き生きと学ぶ児童の育成
めざす授	愛業の姿	子どもたちがしなやかに思考し,生き生きと学ぶ授業

# 福山市立湯田小学校

# Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

		中期				中間評	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)											
	年目		重点	分類		目標達成に向けた取組	評価指標	□指標に係る 取組状況		達成評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	プロセス <b>評価</b>	達成 合評価 評価 個	) 7	改善方策					
2	2	見量の思いや考えを大切にし、よのよい時の意見	*	見直し	○主体的な学び づくりを進め る教師集団づ くり	進度・深度、納得解をキーワードとした授業づくりに取り組む。  ・「自分をパワーアットでは、「自分をパワーアットでは、「自分をのでは、「できるでは、「できるでは、」では、「できる」といい、「はいい」といい、「はいい」といいます。	・【児童】自分で「問い」を 持ち楽しみながら学ぶ 児童を 80%以上にす る。 ・【教師】自己課題を持ち、 児童と共に学ぶことが 楽しいと思う教 70%以上にする。 ・自主学習が楽しいと感 じる児童を 70%以上に する。	・児童の肯定的評価は、 81%。児童が決める・選 ぶ学びの入り口を工は、 96%。学年でででくりを 進めた。 ・児童の肯定の一下りででである。 ・児童の「パワいきな感がです。 がでかが、アウムができというでででででででででででででであり、 でもいでででいたのででででででででででででででででででででででででである。 ・アオネスに負担である。 ・アカが、アウムとがいたのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	4		・児童が「問い」を持って、学が「問い」を持って、学びのがいかで見にで見い。 学びの過な、では、学続する。自然を持めい。 は、学がであた。 は、学続する。 は、学続する。 は、学続する。 は、学続する。 は、学がする。 は、学がする。 は、学がする。 は、学研がは、学研がは、できるでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でいるでは、でいるでは、できないできないできないできないできないできないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない										
		ど創る力を育成する教育活:	2創る力を育成する教育活	S創る力を育成する教育活動	のを創る力を育成する教育活動					○自他の尊重, 自分たちで学 校を創る, 失 敗からのリカ バリーできる 児童の育成	ルの配布し、リーダー 同士の小集団による活動 が展開できるようにす る。 ・学習活動や児童会、 委員会活動などで、 子ども発のアイデア 企画を計画、実行す る。	累計 650 人以上にする。 ・学級や学年間で、リーダー会を学期に 1 回以上行う。 ・子ども発のアイデア企画を計画、実行できたと感じる児童を70%以上にする。	・「目標実践リーダー」は、 1学期末で550人。 ・1学期のリーダー同士の活動は行えていない。 ・児童の肯定的評価は、 63%。学級や学校のために、進んで働くことができたと感じている児童がいる一方、アイデアはあるが実行できない児	3		<ul><li>各学年や学級から、日常的に思いや願いを吸い上げるシステムを確立する。</li></ul>					
		動の推進			○進んで体力づ くりに取り組 む児童の育成	に児童や教師が楽し みながら行うことの	<ul> <li>・児童のアイデアを基にした運動や遊びを毎学期1回以上実施する。</li> <li>・児童アンケートで進んで体力づくりに取り組んだ児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	<ul><li>・1 学期は、児童が学年ごとに、内容から考えスポーツフェスティバルを実施することができた。</li><li>・児童の肯定的評価は、80%。</li></ul>	3	3	・個々でも楽しんでできる運動,体力づくりにつながるトレーニング方法などを、全校に紹介する。 ・企画等は、体育委員会を中心に児童の意見をもとに計画,実施していく。										

〇計画的に職務 • フ	入退校時刻を自己管 ・時間外勤務時間45時	•時間外勤務時間 45 時間	・ICT を活用した業務の精	
を遂行する教	理し,見通しを持っ  間以内を 100%とす	以内は 93%。勤務時間	選・工夫・均衡化の取組	
職員集団づくた。	た業務を行う。 る。	を意識することができ	と課題に対する組織的	
り り		てきている。	な取組を行う。	
〇保護者・地域 ・ 曽	学校の取組や育てた ・ 保護者アンケートを年	・保護者の肯定的評価は,	・ICT を活用して,授業や	
に信頼される   し	い資質・能力,児童の2回行い,すべての項目	①子どもは学校が楽しいと	行事,学校評価自己評価	
学校づくり B	成長について通信・ で肯定的評価を90%以	感じている …97% 4 4	表の取組状況等を情報	
	ホームページ等で細 上にする。	②HP や便り等で学校の様子	発信する。	
	やか発信する。	がわかる …91%		
		③湯田小学校に通わせてよ		
		かった …95%		
		分散登校時には,ICTを		
		活用して情報発信と保		
		護者連携ができた。		

## [プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準				
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、 問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。				
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が 生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。				
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化,問題が生じた際は,協同的な課題解決がある程度図られた。				
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く,状況の変化,問 題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。				
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題 が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。				

# [達成評価の評価基準]

評点	評価基準			
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあ げた。			
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。			
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。			
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。			
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。			

## [総合評価の評価基準]

評点	評価	基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成でき た。
4	80%以上100%未満 の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の 達成度	ある程度目標を達成でき た。
2	40%以上60%未満の 達成度	あまり目標を <b>達</b> 成できな かった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかっ た。